

INFO ①

ぺこぺこのはたけの近況と価格改定のお知らせ

今年は雪解けが遅く、やっと雪が溶けて山や畑の緑がいきいきとしました！みなさまいかがお過ごしでしょうか？春らしい気候になり遠方からぺこぺこのはたけに立ち寄ってくださるお客様も増えてきました！

4月の小鉢御膳は、ふきのとうを天ぷらに仕上げました。常連のお客様からは、「ふきのとうの季節がきましたね」とお声をかけてくださる方や、毎年ふきのとう味噌を楽しみにされている方もいらっしたり、お食事を通して、四季の移り変わりを感じてご来店くださり、とても嬉しく思います！

6月の小鉢御膳も露や独活といった爽やかで清々しい香りの山菜を使ったお料理を予定しております。お近くにお越しの際はぜひお立ち寄りください。お待ちしております！



価格改定のお知らせ

昨今の原材料の高騰、物流費の上昇を受け、2025年4月よりメニューの価格を改定させていただいております。何卒、ご理解賜りますようお願い申し上げます。今後ともぺこぺこのはたけをどうぞよろしくお願いいたします。

●季節の小鉢御膳1,300円▶1,500円 ●とんかつ御膳1,400円▶1,600円

INFO ②

当事者や現場から学ぶオンライン講座「福祉と当事者のリアル」

毎年ご好評いただいております、「福祉と当事者のリアル」が今年度も始まりました。「福祉と当事者のリアル」とは、北海道医療大学看護福祉学部の授業で、当事者や実践者のリアルな話に触れることで福祉や社会について考え、当事者から学ぶ姿勢を育むことを目的としています。また、公開講座として広く一般の皆さまへも発信しています。

一般視聴では、福祉関係者のみならず、教育や医療関係者、当事者や主婦・主夫の方々など、毎年500名近くの方々にご所属の方にご視聴いただいております。その幅も広がっています。

オンデマンド配信で1週間の期間のうち好きな時間に視聴できるため、仕事や家事で忙しい方にも学びの機会がありご好評いただいております。

当事者や実践者からのリアルな話を聞いて、新たな考え方や価値観に出会うきっかけになれば幸いです。

既に配信が終了している回もありますが、後期も続きますのでご興味をお持ちの方はぜひQRコードからご登録ください。



Donation 寄付について

ゆうゆうの活動にご支援をお願いします

◎社会福祉法人への寄付について

私たちの考え方、事業に共感していただける皆さまからのご寄付を受け付けています。

超少子高齢・人口減少社会などの社会課題に対し、「ひとりの想い」を大切にする福祉実践を展開し継続した活動をするためには、皆さまの力が必要です。ぜひ活動へのご支援をお願いします。

1 個人の場合 2 法人の場合 3 相続による寄付の場合

所得税の寄付金控除または税額控除が受けられます。

一般の寄付金とは別枠で、法人税法上の損金算入ができます。

租税特別措置法により相続税が非課税となることがありますのでご相談ください。※個人で適用を受けるためには確定申告が必要です。

領収書について

寄付金控除を受けるには、「寄付金」の但し書きのある領収書が必要です。当法人発行の領収書をご希望の方は、お電話又はWEBお問い合わせフォームからご依頼ください。

TEL:0133-22-2896
https://yu-yu.or.jp/contact/



ゆうゆうの今を伝える広報紙



YOU YOU MAGAZINE

ゆうゆうマガジン



ぺこぺこのはたけ 種まき体験
撮影：酒井美結

YOU YOU MAGAZINE 2025/5 SPRING

デザイン／株式会社ブリオンデ 山崎啓太郎 発行／社会福祉法人ゆうゆう 広報 tel:0133-22-2896 mail:info@yu-yu.or.jp

2025 / 5 SPRING



理事長メッセージ

ゆうゆうは設立20周年を迎えます

社会福祉法人 ゆうゆう 理事長

大原 裕介

NPO法人を立ち上げてから20年を迎えることとなりました。事業規模は12億円となり、職員数は約400名となりました。当別町、江別市、岩見沢市、苫小牧市に加えて、今年から和寒町で特別養護老人ホームと高齢者デイサービスを運営することとなりました。当別町ではじめて障がいのある子どもたちのサービスは、今思い起こすと、「誰もやらないこと」を「やる」ことだったと思います。私たちが大切にしている「ないものをつくる」実践の精神は今も変わらず抱きながら、人口減少著しく、経営的にも厳しい、和寒町の取り組みを推進していきたいと思っています。

福祉分野のみならず、担い手不足は深刻です。担い手が今後も急速に不足する一方、「超」高齢化が進行し、不安定な社会情勢

のなか福祉的なサポートを必要とする人たちは増加していくことが想定されます。地方部に顕著な課題として捉えがちですが、札幌市などの都市では85歳以上の人口がこれからの10年間で著しく増加します。

私見ですが、今後、都市部での安心した暮らしの確証はないと思っています。住み慣れた地域に暮らし続ける地域づくりのあり方が問われる時代であると思っています。

そのような状況のなか、今年も全国から新しい職員が入职してくれました。年度が始まってすぐに来年度の新卒の内定者も決まっており、多くの若者たちが就職先としてエントリーしてくれています。人事採用に弛まぬ努力を惜しんだ結果でもあります。これからも続く、当たり前の状況ではないと思っています。人材採用戦略と定着支援に

ついては、ゆうゆうの重視するアジェンダの一つです。ただ、法人として取り組むだけでは限界があります。利用者やご家族、行政や地域の関係者の皆さまが、彼らや彼女たちを「育てる」「可愛がる」ことが何よりの励みになることを、これまでたくさん目にしてきました。「今時の若者」と一括りに語られ、「私たちが生きてきた時代と違う」と思われがちですが、少し繊細な面があるものの、素直な若者たちです。それは今も昔も変わらない。私たちが利用者やご家族、地域の人たちに支えていただき、20年間続けることができたことが、「それ」を証明しています。

私たちの「誰もやらないこと」と、若者たちの活躍をmagazineで届けていきたいと思います。皆様の今後も変わらないご支援を心からお願い申し上げます。

新入職員紹介

新卒採用職員



井上 公輔

ヘルパーステーションajisai 介護員
出身校:北海道大学経済学部経営学科
昨年度は学生インターンとして、この4月から正職員として働いています。子供たちとの放課後、ひょっとと踊り、地域の方のお宅にお邪魔して食べるおいしいごはんなど、当別ライフが楽しすぎたため、ゆうゆうで働く決心ができました!

新卒採用職員



村雲 佑月

amaririsu 児童指導員
出身校:大阪府立大学地域保健学科
ひとりの想いを大切にしつつ、地域とつながり、実践を広げていく取り組みに惹かれ、入職を決意しました。一人ひとりと向き合い、日々自身の行動を振り返りながら努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

新卒採用職員



劉 安綺

和寒事業部施設ケア課介護支援係 介護員
出身校:旭川福祉専門学校
夢を実現し視野を広げたいため就職しました。日本の介護技術は台湾より進んでおり、高齢化社会に対応しています。芳生苑での実習経験を活かし、チームで協力しながら課題解決に取り組めます。

中途採用職員



関原 純子

経営企画推進部 総務・財務・労務担当
准職員として数年事務局で勤務し、今後もゆうゆうに関わり福祉を学んでいきたいと就職を考えました。これまで以上に業務を理解し、皆様の力になれるよう誠実に努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

中途採用職員



中内 志保

ダブルトルカフェ、U-Garden 生活支援員
6年前に準職員で入職し、子育てのお休み期間を経て、今年度から正職員となりました。まだ経験は浅いですが、お一人ひとりの人生に寄り添える責任と喜びを日々感じながら、笑顔と思いを大切に何事にも取り組んでまいります。

中途採用職員



安藤 陽代

苫小牧市東開文化交流サロン見守り支援員
東開文化交流サロンのオープニングスタッフとして勤務し、地域の方々と気軽に話しやすい関係づくりを大切にしています。人と人がつながる場を育み、交流を深め、地域の活性化に貢献できるよう努めています。

中途採用職員



浅野 菜

生活介護事業所よるのにじ生活支援員
美術やイベントに関わる仕事をしながら、福祉にも携わってきました。ゆうゆうでは、どちらの経験も活かしながら利用者の方が毎日幸せになる場を育み、交流を深め、地域の活性化に貢献できるよう努めています。

中途採用職員



北川 敦子

生活介護事業所よるのにじ生活支援員
ひとりの想いを文化にする理念と地域の方とのまちづくりに魅力を感じました。障がい福祉の仕事は初めてですが、心に寄り添った支援を目指していきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

中途採用職員



上鶴瀬 圭次

Social Apartment大麻こぼと生活支援員
今年1月から大麻こぼとで働いています。前職は他法人にて生活介護の職員をしていました。利用者とご家族の皆様が楽しく生活できるように仕事をしていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

中途採用職員



菅 諒磨

KIYOSE マンション 生活支援員
以前学生アルバイトをしていました。当時得た人とふれあう経験と、そこで一緒に成長できたという想いからゆうゆうに転職しました。初心にかえて学び、たのしみ、ひとりの想いを文化にチームワークで取り組んでまいります。

中途採用職員



犬塚 美雪

ヘルパーステーションajisai 介護員
ゆうゆう職員の温かさと困っている方々を手を差し伸べる多くの夢や目標を実現してきたことに惹かれ入職を決めました。前職の看護師経験を活かして、利用者の方々の笑顔や健康をお守りできればと思っています。

中途採用職員



加藤 直子

和寒事業部施設ケア課介護支援係 介護員
札幌から和寒町へ引っ越し、高齢の方と過ごすのが好きで芳生苑に入職しました。皆様に温かく迎えていただき感謝しています。名前と顔を覚え、会話を増えています。笑顔を大切に、その人らしい生活を支えていきたいです。

中途採用職員



石川 沙季

和寒事業部施設ケア課地域ケア課医療支援係 看護師
5年前に芳生苑に勤め、ご利用者との関わりで「もっと良いケアを提供したい」と思い、他施設や病院で経験を積みました。お一人お一人にまごころのこもったケアを提供し、自分らしく生きていけるよう全力で頑張ります。



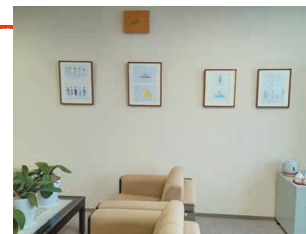
共愉(きょうゆ)するまちを創造する

令和7年4月より社会福祉法人ゆうゆうは、和寒町特別養護老人ホーム芳生苑、和寒町老人デイサービスセンター健康苑の運営を担うこととなりました。設立より約50年の歴史を持つ芳生苑の建て替えを中心とした「和寒町ふくしのまちづくり基本構想」について、和寒町民の皆さんとサミットやラボ等の機会で見解を交わし、子どもからお年寄りまで皆さんが活躍し、いきいきと暮らす「共愉するまちを創造する」という和寒町の基本理念の策定に至りました。この理念の中核となる新しい拠点は和寒町にとってシンボリックな場所となっていく予定です。今年度は、皆さんの想いをさらに具体的な形にするため実施設計に取り組んでいるところです。そんな中、ご縁があり、ゆうゆうが芳生苑・健康苑の運営法人となりました。改めてこの場を借りてご挨拶申し上げます。不慣れなことも多いかと思いますが、どうぞ皆様よろしくお願いいたします。これまで芳生苑・健康苑をご利用いただいている皆様には継続したサービスを提供させていただいており、働く職員も前法人から継続して勤務しているため、なじみの関係はそのままです。引き続き未来に向けて、熱い和寒町の事業に皆様応援よろしくお願いいたします!



準起さんの作品が大学の学長室に!

ゆうゆうでの就労支援を経て、現在は北海道医療大学で一般就労している田村準起さん。準起さんの描くイラストは法人封筒にも使われていますが、そのユーモアあふれる視点と、見る人を笑顔にするほのぼのとした優しさに満ちた作品は、見る人の心をつかんでいます。以前からファンだったという北海道医療大学の三国学長の「いつか欲しい」という願いが叶い、芸術文化推進が額装などのお手伝いをさせていただき、13点の作品が1月に学長室へ納品されました。添えられたメッセージも魅力的で、「癒される」と学長から喜びの声が寄せられています。当日は終始笑顔の準起さんも、「とっても嬉しいです!」と感激。準起さんの作品が、大学にやさしい空気を届けています。



人生を自分で決める～意思決定支援を学ぶ会～

YOUYOU magazine前号でご紹介した内容の続編です。利用者の権利擁護、意思決定支援を先駆的に実践している長崎県にある南高愛隣会さんに、令和7年2月3日～4日の一泊二日、職員4名が現地視察に行ってきました。南高愛隣会さんは、昭和52年に発足した歴史ある法人で、グループホームは、現在120棟あります。私たちがこれから取り組むべき課題を、すでに経験している法人であり、金銭管理や成年後見人制度の活用・運用方法、愛する人との暮らしを実現する拠点である「ぶ～け」のご説明をいただいたほか、生活介護やグループホームを見学させていただきました。現地に足を運んだからこそ体感できたこと、直接お会いしたからこそできた意見交換が、あったと感じています。ゆうゆうをご利用いただいている方々が、これからも安心して生活し続けることができるように、この研修を今後活かしていきます。



ご飯を囲んで語らいながらまちを知っていく 2Fの会

2年前から毎月一度、当別町内で「2Fの会」という集まりを平日夜に開催しています。以前はカラオケ店として営業していた空き店舗の2階にある一部屋(なんと鉄板付きで料理ができます)を活用しています。町内の建設会社の社長さんと若手社員さん、当別高校の先生方、町内の森でメーブルシロップを作られている方、劇団を主宰されている方など毎回20名程度の参加者が集まり、料理を食べ、飲みながら語り合う場になっています。この4月は、町内で中古車販売を営むバキスタンの方々がスパイスカレーを作ってください、舌鼓を打ちました。顔を合わせ、話ず中でお互いのことを知り、「一緒にこんなことやってみましょう」「おもしろそうですね、足を運んでみます」と会話が弾んでいくことが、このまちでの暮らしの愉しさを教えてくれます。毎回初参加の方がおり、新たな発見のある2Fの会。これからも継続しつつ、まちのディープな魅力に出会っていききたいと思います。

